

[成果情報名]大玉で食味が良い生食用パインアップル新品種「沖農 P19」

[要約]パインアップル新品種「沖農 P19」は平均果実重が 1.3kg を超える大玉果で、香りや食味が良い中晩生品種である。株出し体系でも大玉果が得られ、既存品種「ソフトタッチ」よりも水浸状果実の発生率が低く、収量性と果実品質に優れる。

[キーワード]パインアップル、新品種、中晩生、大玉果、株出し体系

[担当]沖縄県農業研究センター・名護支所・果樹班

[代表連絡先]0980-52-0052

[分類]普及成果情報

[背景・ねらい]

沖縄県におけるパインアップル生産は生食用品種の比率が増加しており、その重要性は年々高まっている。近年、消費や販売形態の多様化から、従来の青果としての出荷だけでなく、カットフルーツ等をはじめ生食用および業務用としての需要増大も期待されている。そこで、食味が良くかつ大玉で果肉歩留まりの良い多収な新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 「沖農 P19」は、2000 年に沖縄県農業試験場名護支場（現 沖縄県農業研究センター名護支所）において、「ゆがふ」に「ソフトタッチ」を交雑して得られた実生から選抜している（図 1）。2003 年に第 1 次選抜（個体選抜）を行い、2~4 次選抜を経て、2008 年より沖農 19 号として、名護および石垣において地域適応性を検討し、2021 年 12 月に品種登録された品種である。
2. 冠芽はやや大きく、果形は“たる形”、果皮色は“黄橙色”、果肉色は“白”～“帯黄白”である（図 2）。
3. 平均収穫日は「N67-10」と比べ、名護では早く、石垣では遅い中晩生品種である。自然夏実の平均果実重は 1.3kg 以上となり、生食用品種の「ソフトタッチ」、「ボゴール」より重く、株出し体系の 2 回目収穫果も 1.0kg を超えるため、高収量が期待できる（表 1）。
4. 自然夏実の糖度は 16.1~17.0° Brix で「ソフトタッチ」と同程度であり、酸度は 0.63~0.64% で対照品種よりも低く、糖酸比が高い（表 1）。甘いココナッツ様の特色のある芳香を持ち、果肉歩留まりは重量比 55% で既存生食用品種よりも高く、加工生食兼用品種の「N67-10」と同程度である（データ略）。
5. 露地栽培において水浸状果実の発生は「ソフトタッチ」と比べて少ない（表 1）。
6. 本島北部地域（名護）において、ビニールハウス施設を利用した促進夏実体系は水浸状果実や裂果の発生を低減させる効果があり、露地栽培の自然夏実と比べ平均果実重も重くなる（表 1、表 2）。

[普及のための参考情報]

1. 普及対象：パインアップル生産者。
2. 普及予定地域・普及予定面積・普及台数等：沖縄県の酸性土壌地域、86ha
沖縄県の生食用パインアップル普及促進事業にて拠点産地を中心に、種苗の増殖を進めている。
3. その他：
 - 1) 促進夏実体系は、八重山地域では露地栽培で実施可能であり、本島北部地域では低温による水浸状果実や裂果の発生が懸念されるためハウス栽培が望ましい。
 - 2) 春植えの作型では早期出蕾しやすく、収穫される果実が軽くなるため、夏植えが適している。
 - 3) 出蕾時の気象条件により裂果の発生がみられる。
 - 4) 果柄長が長い場合必要に応じ倒伏防止対策を実施する。
 - 5) 苗の外観は「ソフトタッチ」と酷似しているため、植え付け時の混入には留意する。

[具体的データ]

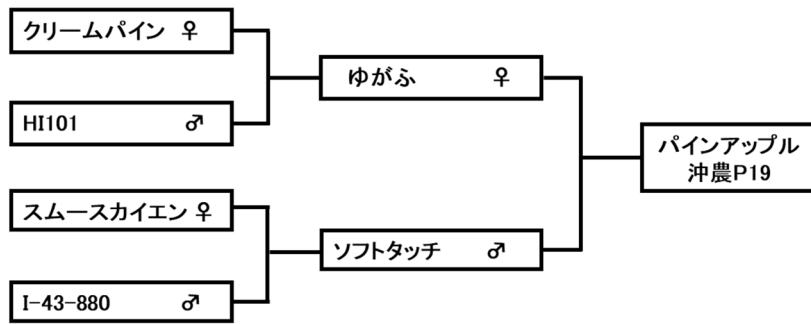


図1 パインアップル「沖農 P19」の系統図



図2 「沖農 P19」の結実状況(左)および果実断面(右)

表1 夏植え—自然夏実体系における果実特性および栽培特性関連形質(2014–2018年平均)

収穫体系	試験地	品種名	出蕾率 (%)	平均収穫日 (月/日)	果実重量 (g)	果汁			裂果 ^z 発生率 (%)	水浸状果実発生率 (%)	小果腐敗病発生率 (%)	発生苗		果柄長 (cm)	
						糖度 (° Brix)	酸度 (%)	糖酸比				えい芽数 (本)	吸芽数 (本)		
自然夏実	名護	沖農P19	95.9	8/12	1,312	中-多	16.1	0.63	26.4	9.0	28.7	14.2	5.2	1.2	28
		N67-10	85.3	8/24	1,482	多	14.3	0.81	18.1	14.8	49.4	14.6	2.1	0.9	14
		ボゴール	81.1	7/18	802	少-中	18.1	0.75	25.2	0.3	6.4	8.1	3.2	1.8	18
		ソフトタッチ	77.3	7/19	776	中	16.8	0.75	22.9	1.7	66.2	15.8	5.8	1.3	28
	石垣	沖農P19	96.3	7/30	1,365	中	17.0	0.64	28.5	7.3	11.9	13.7	7.2	1.0	27
		N67-10	86.6	7/20	1,140	多	15.0	0.73	21.3	25.8	75.9	4.4	1.7	1.2	13
		ボゴール	78.5	7/4	952	少	18.6	0.68	29.1	9.0	4.3	32.8	3.5	2.0	15
		ソフトタッチ	76.0	6/30	888	中	17.0	0.68	25.4	4.3	70.1	38.2	6.1	0.9	28
株出し(2回目)	名護	沖農P19	66.5	8/15	1,007	中	17.7	0.61	30.0	33.8	15.2	11.8	1.5	0.9	20
		N67-10	9.4	8/23	1,013	中-多	14.2	0.83	18.3	25.4	36.1	13.9	0.7	0.4	15
		ボゴール	44.0	7/20	798	少-中	17.8	0.71	26.1	0	12.5	18.0	1.5	1.1	18
		ソフトタッチ	51.4	7/19	615	中	17.9	0.85	21.5	3.2	57.9	23.4	2.8	0.7	24

名護ではマルチ栽培、石垣では裸地栽培で試験を実施したデータである。

z: 裂果発生率は商品化が困難となる中程度以上の果実数/総果実数×100

表2 ハウス栽培の夏植え—促進夏実体系における果実特性および栽培特性関連形質

収穫体系	品種名	花芽誘導処理時期	出蕾率 (%)	平均収穫日 (月/日)	果実重量 (g)	果汁			裂果 ^z 発生率 (%)	水浸状果実発生率 (%)	小果腐敗病発生率 (%)	発生苗	
						糖度 (° Brix)	酸度 (%)	糖酸比				えい芽数 (本)	吸芽数 (本)
促進夏実	沖農P19	10月上旬	100	5/18	1548	16.2	0.66	25.7	5.9	0	5.9	3.6	0.8
		11月中旬	100	6/30	1622	18.5	0.44	46.0	0	6.7	14.3	6.1	0.9
	ボゴール	10月上旬	100	4/23	1231	15.2	0.83	18.7	0	0	0	1.3	1.0
		11月中旬	100	6/9	1321	22.3	0.50	47.5	0	0	13.3	5.5	1.4
	ソフトタッチ	10月上旬	100	4/18	989	14.9	1.03	15.1	0	0	0	3.8	0.6
		11月中旬	100	5/24	830	18.4	0.82	23.2	0	0	6.3	5.9	0.4
株出し(2回目)	沖農P19	11月中旬	78.6	7/15	1204	18.7	0.53	38.4	9.4	0	6.3	3.6	0.6
	ボゴール	11月中旬	71.4	6/16	754	20.7	0.47	45.1	0	0	15.2	1.7	0.7
	ソフトタッチ	11月中旬	73.2	6/15	646	20.6	0.71	30.0	0	2.9	14.7	3.4	0.4

促進夏実は名護支所における2017年収穫果の集計であり、株出しは同試験区の2018年収穫果の集計である。

z: 裂果発生率は商品化が困難となる中程度以上の果実数/総果実数×100

(沖縄県農業研究センター名護支所)

[その他]

予算区分：競争的資金（イノベーション創出強化研究推進事業 等）

研究期間：2000～2018年度

研究担当者：竹内誠人、正田守幸、與那嶺要、諸見里知絵、池宮秀和、粟國佳史、與那覇至、仲村昌剛、大嶺悠太、出花幸之介、崎山澄寿、松村まさと、武末翔真

発表論文等：

1) 大嶺ら (2020) 園芸学研究、19 別冊 1 :268

2) 竹内ら「沖農 P19」品種登録第 28709 号 (2021 年 12 月 13 日)